第３回　ようこそ考古学

ようこそ弥生のムラへ

（財）かながわ考古学財団　新開基史

２００７．９．７(金)　かながわ県民センター　会議室

１．はじめにー弥生時代についてー

（１）狩猟・採集から農耕・生産へ

①灌漑施設を伴う水田での稲作

②土器の器種の変容

縄文時代の深鉢・鉢が主体の器種構成から甕・壺が主体の構成へ

③木材加工用の新しい石器

大陸系磨製石斧ー伐採・製材・加工のための新しい道具により木材の加工技術が飛躍的に進んだ。

④木製農具などの発達

鍬・又鍬・鋤・えぶり・砧など、基本的な農具の構成はほぼ完成。

⑤金属器の出現

（２）集団間の争い

水争い・略奪などを目的とする集落間の争いがはじまる。

武器の使用・防御的集落

（３）自然を開発する時代

２．神奈川県の弥生時代と矢ノ津坂遺跡（弥生時代中期後半を中心に）

（１）神奈川県の弥生時代

①遺跡の分布

弥生時代中期中葉頃までは、比較的山間部に寄った分布。

弥生時代中期後葉から低地沿いに進出、集落数が増大する。

②集落様相

環濠集落などの中心集落と小規模な集落

（２）矢ノ津坂遺跡

①矢ノ津坂遺跡の立地

狭い尾根上の集落ー防御的集落か？

②集落の様相（各時期の概観）

継続的に営まれた

③出土した遺物から解ること

生業を推測する

④矢ノ津坂遺跡の性格

３．まとめ

■参考文献■

1977 赤坂遺跡調査団「三浦市赤坂遺跡」

1991 伊藤　郭他「大塚遺跡」遺構編　港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告ＸⅡ　横浜市埋蔵文化財センター

1991 谷口　肇「神奈川『宮ノ台』以前」『古代』92

1992 三浦市教育委員会「赤坂遺跡にみる遠い祖先のくらし」三浦市埋蔵文化財調査報告書第２集

1994 岡本　勇他「大塚遺跡」遺物編　港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告ＸＶ　（財）横浜市ふるさと歴史財団

1995 横浜市歴史博物館（財）横浜市ふるさと歴史財団「弥生の“いくさ”と環濠集落－大塚・歳勝土遺跡の時代－」

1996 国立歴史民俗博物館「倭国乱る」

1998 中山誠二『「灌漑型水稲作の波及・定着論」分析ノート』『西相模考古』第７号西相模考古学研究会

1999 谷口　肇「池子遺跡群Ｘ　№１－Ａ地点」かながわ考古学財団調査報告 46

1999 谷口　肇「池子遺跡群総集編－池子米軍家族住宅建設にともなう発掘調査記録－」（財）かながわ考古学財団

2000 岡本孝之「関東の環状石斧」『西相模考古』第９号西相模考古学研究会

2000 谷口　肇「「かながわ」における弥生文化形成期の様相について」公開セミナー『弥生時代の幕開け－縄文から弥生への移行期の様相を探る－』（財）かながわ考古学財団

2002 及川良彦「住居と掘建柱建物跡（関東）－関東地方の弥生時代集落の様相－」『静岡県における弥生時代集落の変遷』静岡県考古学会

2003 弥生時代研究プロジェクト「宮ノ台式土器の研究（２）」『かながわの考古学』（財）かながわ考古学財団研究紀要８

2006 吉田政行・新開基史「高尾横穴墓群・矢ノ津坂遺跡」かながわ考古学財団調査報告 198

■入門書■

学生社　「弥生時代の考古学」『シンポジウム［日本の考古学］』３

東京大学出版会　「水田の考古学」『ＵＰ考古学選書』１２

大阪府立弥生文化博物館　「弥生文化　日本文化の源流をさぐる」

岡山・6000年前の貝塚
縄文前期に本格稲作？

稲の化石大量出土

縄文時代前期とされる岡山県灘崎町、彦崎貝塚の約6000年前の地層から、稲の細胞化石「プラント・オパール」＝写真＝が出土したと、同町教委が18日、発表した。同時期としては朝寝鼻貝塚（岡山市）に次いで2例目だが、今回は化石が大量で、小麦などのプラント・オパールも見つかり、町教委は「縄文前期の本格的農耕生活が初めて裏付けられる資料」としている。しかし、縄文晩期に大陸から伝わったとされるわが国稲作の起源の定説を約3000年以上もさかのぼることになり、新たな起源論争が起こりそうだ。

町教委が2003年9月から発掘調査。五つのトレンチから採取した土を別々に分析。地下2・5メートルの土壌から、土1グラム当たり稲のプラント・オパール約2000―3000個が見つかった。これは朝寝鼻貝塚の数千倍の量。主にジャポニカ米系統とみられ、イチョウの葉状の形で、大きさは約30―60マイクロ・メートル（1マイクロ・メートルは1000分の1ミリ）。

調査した高橋護・元ノートルダム清心女子大教授（考古学）は「稲のプラント・オパールが見つかっただけでも稲の栽培は裏付けられるが、他の植物のものも確認され、栽培リスクを分散していたとみられる。縄文人が農耕に生活を委ねていた証拠」としている。

（2005年02月19日　読売新聞）

（読売オンラインより）

灌漑施設を伴う水田の出現

○農耕の開始は縄文時代に遡る

岡山県朝寝鼻貝塚・彦崎貝塚ー縄文時代前期（約6000年前）イネのプラントオパール検出

福岡市板委山崎氏九州の縄文時代遺跡の土器に残された圧痕を検討ーイネ・ハトムギ・ヒエなどを検出。最も古い籾圧痕は縄文時代中期後半（約4500年前）

縄文時代後期以降（約3500年前）には各地で稲の栽培が行われていた？

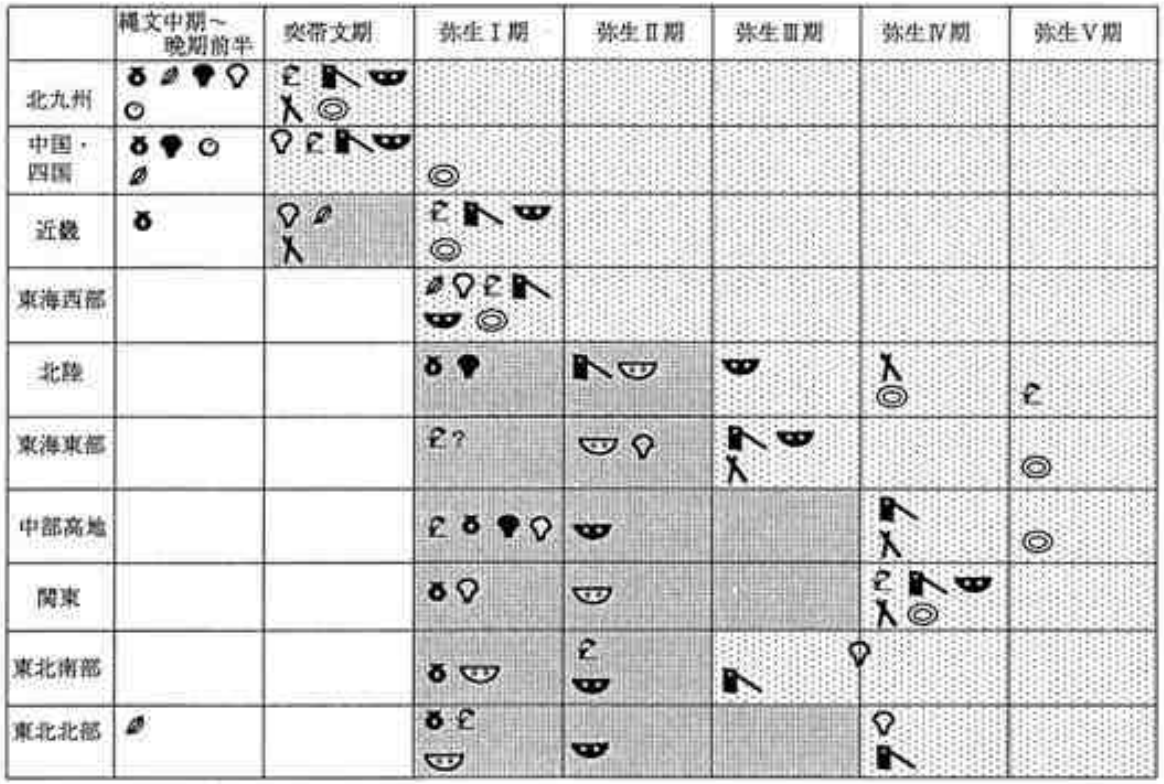
青森県風張遺跡で縄文時代後期末（約3000年前：C14）の炭化米

○灌漑施設を伴う水田での水稲耕作の開始

北部九州で弥生時代早期（縄文時代晩期末頃・突帯文土器）に開始される。

前期には一気に東北まで広がる一青森県砂沢遺跡

静岡県瀬名遺跡（弥生時代中期）

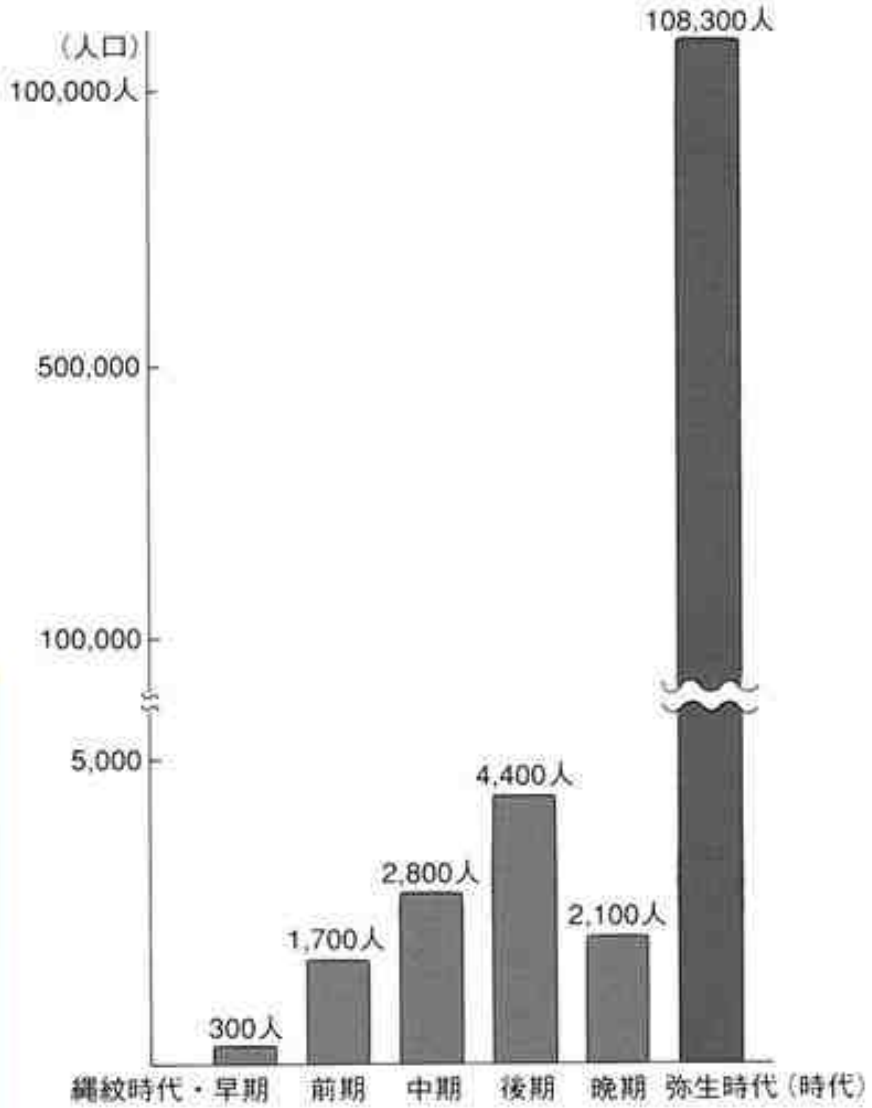


第１図　日本列島各地のイネ資料と水稲稲作技術の出現時期
（埋蔵文化財研究集会　1991「各地域における米づくりの開始」を基に再編成）

（中山誠二1998）

前期に一気に稲作文化が伝播するが、東日本に定着するのは中期頃

大阪弥生文化博物館1995**「弥生人の食卓」図録から**



近畿地方の縄文時代と弥生時代の人口

時期	地域	九州		近畿		関東	
		器種	比率	器種	比率	器種	比率
縄文時代後期末～晩期前葉（前10・11世紀頃）		熊本県　御領貝塚（後期末）		滋賀県　滋賀里遺跡（晩期前葉）		埼玉県　石神貝塚（晩期初頭）	
		精製深鉢	20.4%	精製深鉢	11.8%	精製深鉢	28.0%
		粗製深鉢	55.3%	粗製深鉢	62.8%	粗製深鉢	64.0%
		浅鉢・鉢	24.3%	浅鉢・鉢	24.6%	浅鉢・鉢	7.6%
		―	―	注口土器	0.8%	壺	0.4%
弥生時代早期（前3・4世紀頃）		佐賀県　菜畑遺跡		兵庫県　口酒井遺跡			
		壺	21.7%	壺	2.0%	―	
		甕	54.2%	甕	68.3%		
		浅鉢・鉢	22.1%	浅鉢・鉢	29.7%		
		高坏	2.0%	―	―		
弥生時代前期～中期前葉（前2・3世紀頃）		佐賀県　菜畑遺跡（Ⅰ期）		大阪府　四ツ池遺跡（Ⅰ期）		群馬県　沖Ⅱ遺跡（Ⅰ～Ⅱ期）	
		壺	20.3%	壺	53.3%	壺	20.0%
		甕	53.3%	甕	44.7%	甕	50.0%
		鉢	5.4%	鉢	1.7%	鉢・台付鉢	30.0%
		高坏	21.0%	高坏	0.3%	―	―

土器の機種組成の推移

○貯蔵するための器「壺」の出現

縄文時代までは甕（深鉢）が土器の主体でしたが、弥生時代には煮炊き用の甕と貯蔵用の壺が主体となります。九州北部に朝鮮半島から稲作技術が伝わった頃に、朝鮮半島の無文土器の影響を受けて作られるようになったと考えられています。種籾の貯蔵・食用とする穀物の貯蔵が主な用途であったと考えられます。

大阪弥生文化博物館1995
「弥生人の食卓」図録　渡辺昌宏

生産を支える新しい道具

○木材加工用の新しい磨製石斧（大陸系磨製石斧）

①伐採用斧ー太型蛤刃石斧

②製材用斧ー抉入柱状片刃石斧・扁平片刃石斧

③細部加工用斧ー柱状片刃石斧

○鉄製工具が出現（斧・鑿など）

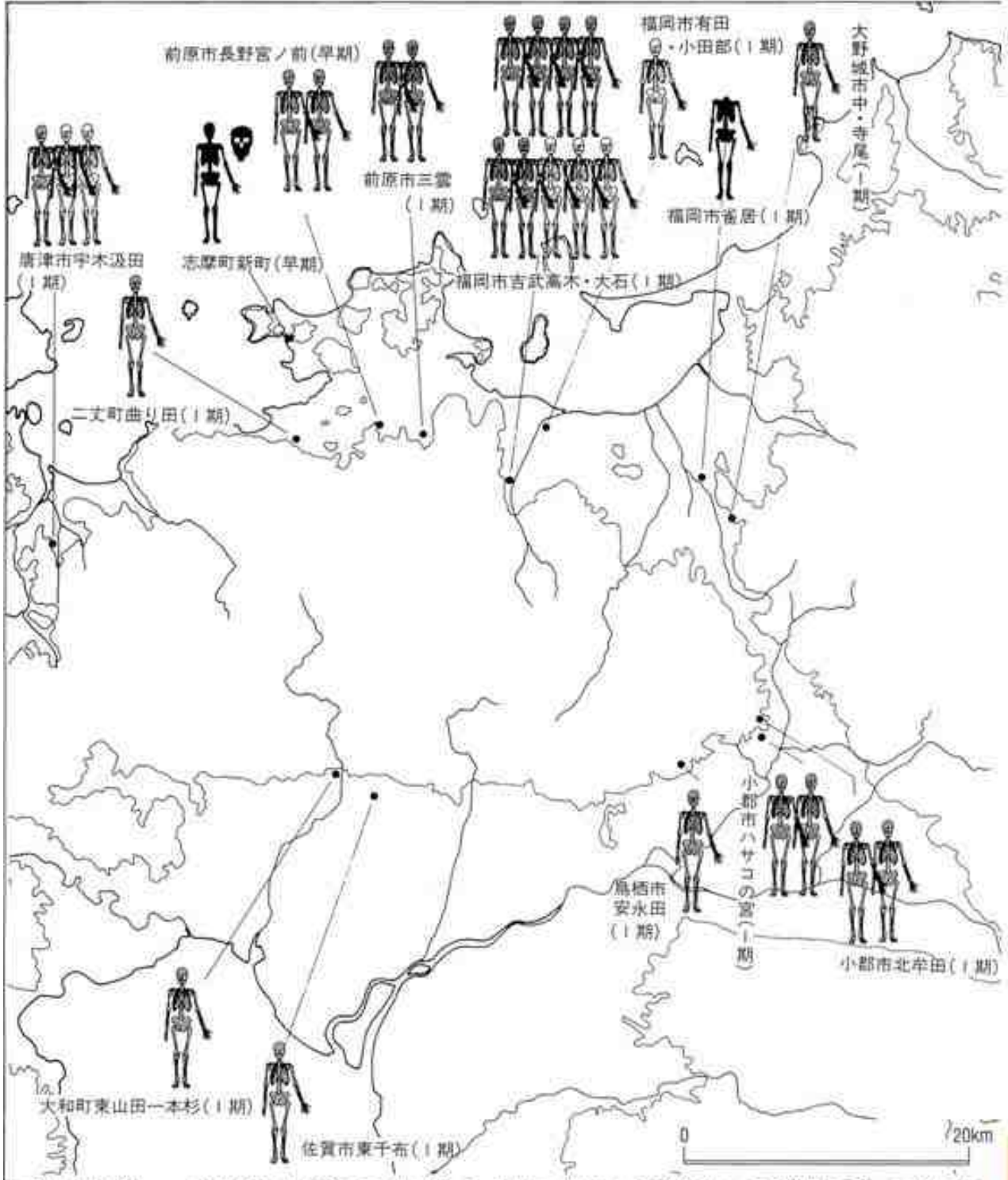
○木製品

農具

鍬・鋤・えぶり・横槌・竪杵・臼など

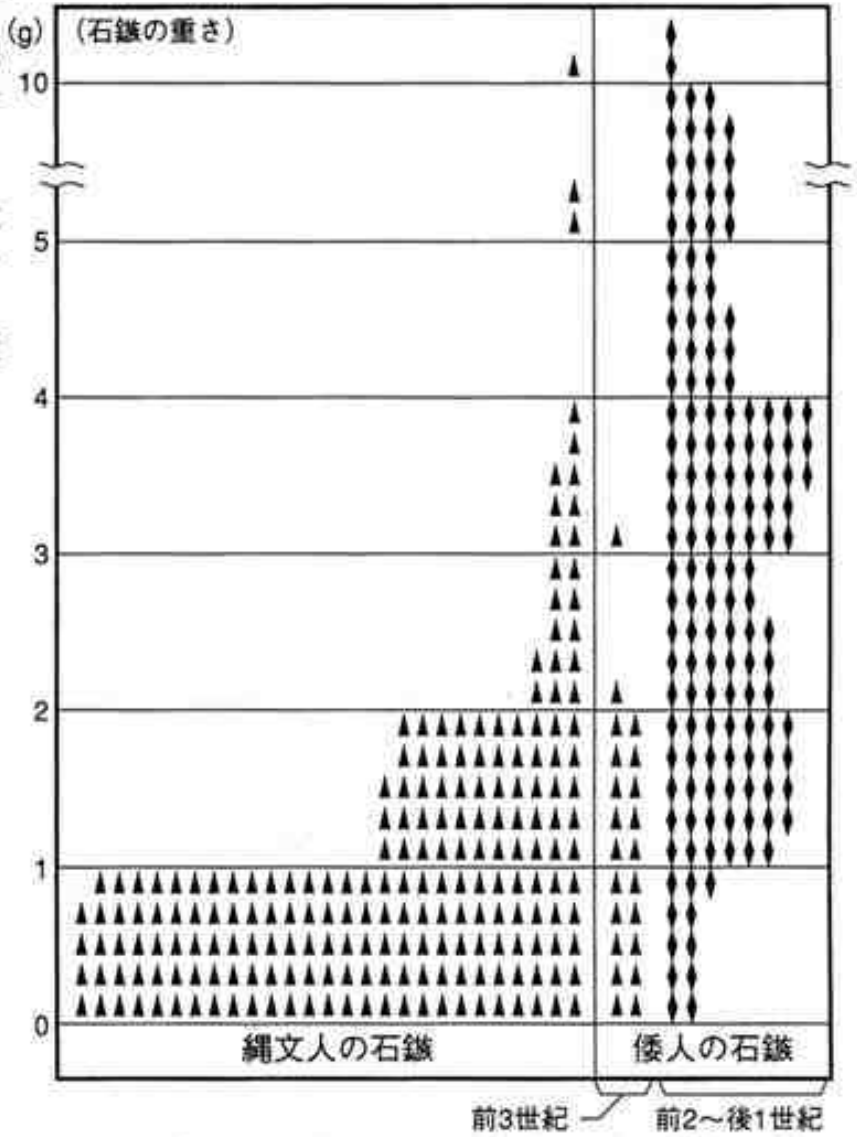
その他

機織り具など



約 2300 ～ 2100 年前の北部九州における戦いの犠牲者の分布

国立歴史民俗博物館 1996「倭国乱る」図録より



西日本での縄文・弥生の石鏃比較

国立歴史民俗博物館 1996「倭国乱る」図録

愛知県朝日遺跡の環濠・環濠内の逆茂木・防御用の杭列

自然を変え、開発する時代が弥生時代

○溝を掘らない縄文時代

栽培や農耕も行うが、基本的に大地を傷つけず、周辺の自然環境から食物を獲得する共生共存の社会。

主な遺構は建物址と土坑（貯蔵穴・狩猟用の陥穴）

○溝を掘る弥生時代

土木事業を行い、自然を改変してその中で自分たちの富を増やしていく構造となった時代。

灌漑施設を持つ水田

環濠を持つ集落

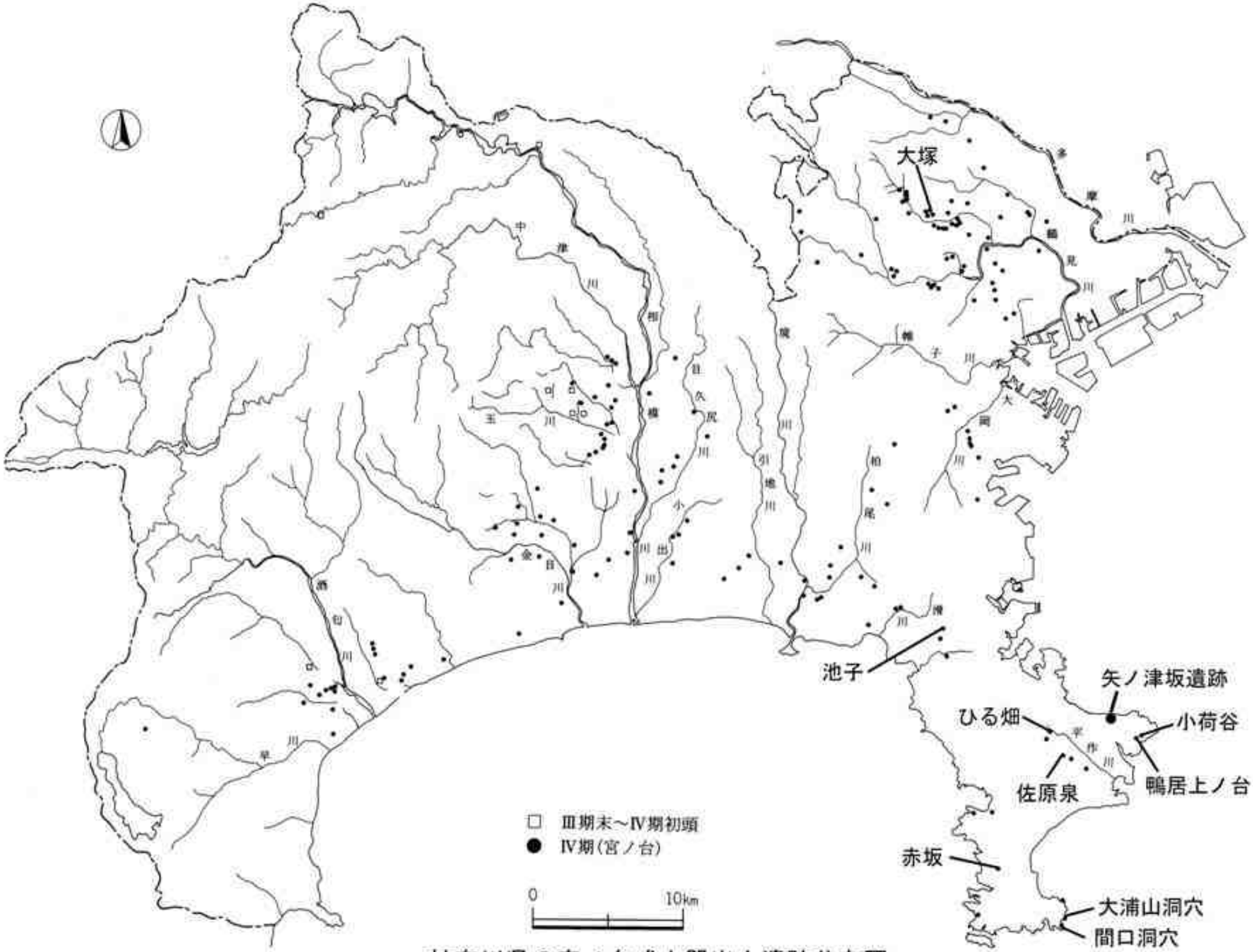
弥生文化形成期の遺跡分布

地域	番号	遺跡名	弥生前期末		弥生中期前葉		弥生中期中葉	
			Ⅰ前	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
A	1	堂山		—	—	…		
	2	カラス山		?	—			
	3	山北駅南側		?	?			
	4	内山尾尻	—	……	—	—		
	5	怒田原			……	—		
	6	怒田上原	—	—	—	…		
	7	加藤屋敷		?	?			
	8	関本出口		?	?			
B	9	塚原			—			
	10	府川						—
	11	諏訪の前	—	—	—	……	……	—
	12	中里					—	—
	13	千代光海端						—
	14	中屋敷		—	..			
C	15	平沢(同明・北開戸)	—	—	—	—	—	
	16	草山		—	—			
	17	遠藤原		…	—			
	18	王子台					..	—
	19	砂田台					..	—
D	20	岡津古久				—	—	
	21	小野川野						—
	22	子ノ神						—
	23	林王子					—	
	24	及川		—	..			
E	25	上村		—				
	26	中野大沢			—			
	27	三ヶ木		…	—	..		
	28	鼠坂				—		
	29	中村原		?	?	?		

地域	番号	遺跡名	弥生前期末		弥生中期前葉		弥生中期中葉	
			Ⅰ前	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
F	30	遊ヶ崎					—	—
	31	雨崎						—
G	32	芦名浜					?	?
	33	池子1－A	—	—	—	—	……	—
	34	金沢八景駅北側		?	—	..		
H	35	杉田	—	……	—			
	36	港南台						—
	37	境木		—				
I	38	霧ヶ丘			—			
	39	なすな原	…	—				
	40	久地伊屋之免		—				
	41	大場富士塚			—			
	42	椙山神社北		—	…			
J	43	小山田No. 4	—	—	—			
	44	多摩NT－No. 457		—	…?			
	45	〃－No. 419		?	—			
	46	〃－No. 461				..	—	
	47	〃－No. 421		—				
	48	〃－No. 287		—	?			
	49	〃－No. 396		?	—			
	50	〃－No.91A・462		—				
	51	〃－No. 692						—
	52	〃－No. 406		—	?			
	53	〃－No. 815						—
	54	平山		—				
	55	神谷原		—	—			
	56	椚田Ⅳ・Ⅴ		—	..			
	57	叶谷					—	
	58	宇津木台		—				

神奈川周辺の弥生文化形成期の遺跡一覧

（谷口1991を一部改変）



神奈川県の宮ノ台式土器出土遺跡分布図

同左土器内面の籾殻

内面に稲の籾殻痕がついている条痕文土器
（宮ヶ瀬遺跡群上村遺跡　Y1号ピット群出土）

宮ヶ瀬遺跡群上村遺跡
Ｙ１号ピット群出土土器

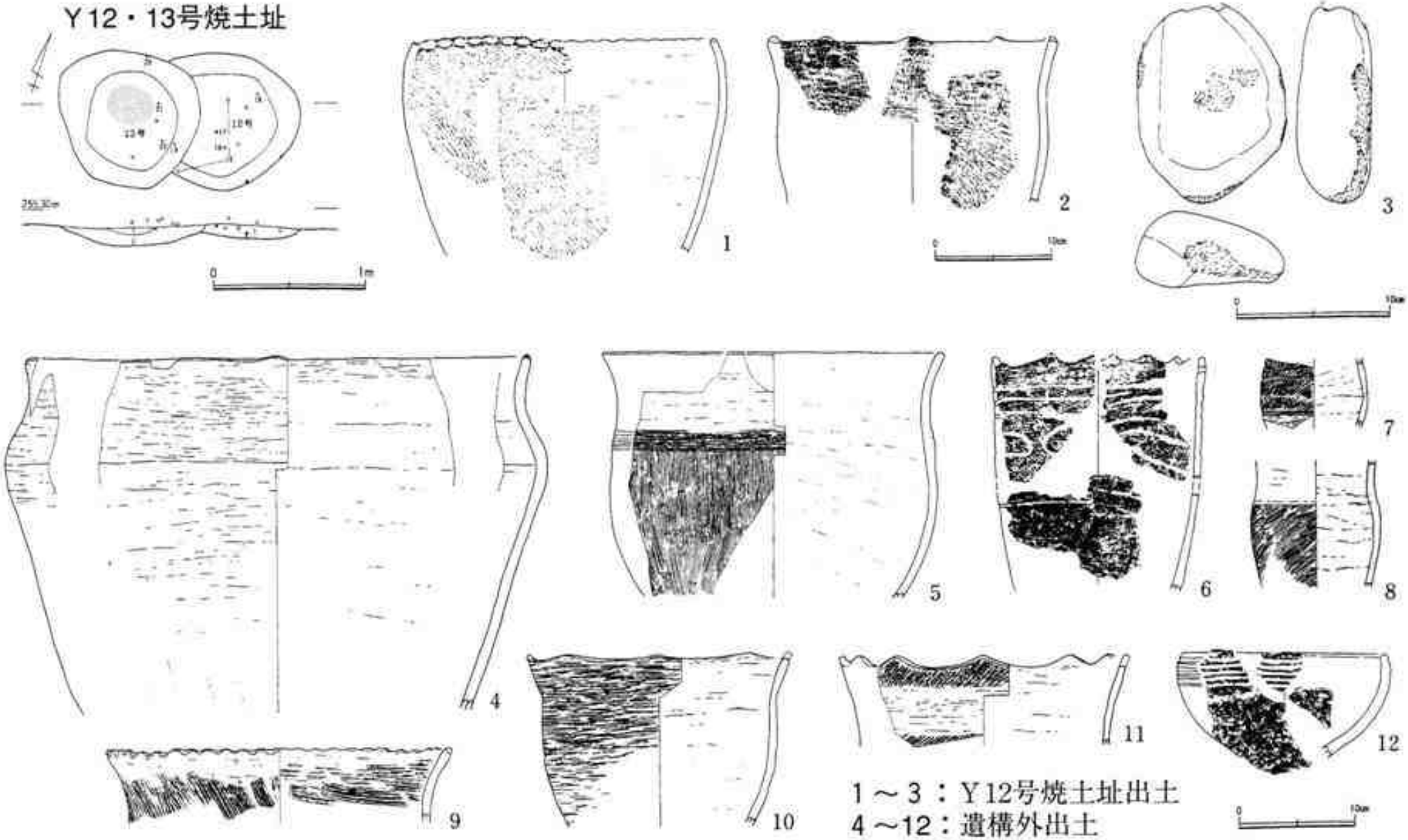
籾圧痕のある条痕文土器
（弥生時代前期末頃）

清川村宮ヶ瀬遺跡群北原（No.９）遺跡（縄文時代晩期末～弥生初頭）

（市川・恩田ほか1994より）

山間部のキャンプ地的な遺跡。他地域との交流の為に移動した人々の痕跡と考えられ、焼土址19基を検出。

Y12・13号焼土址

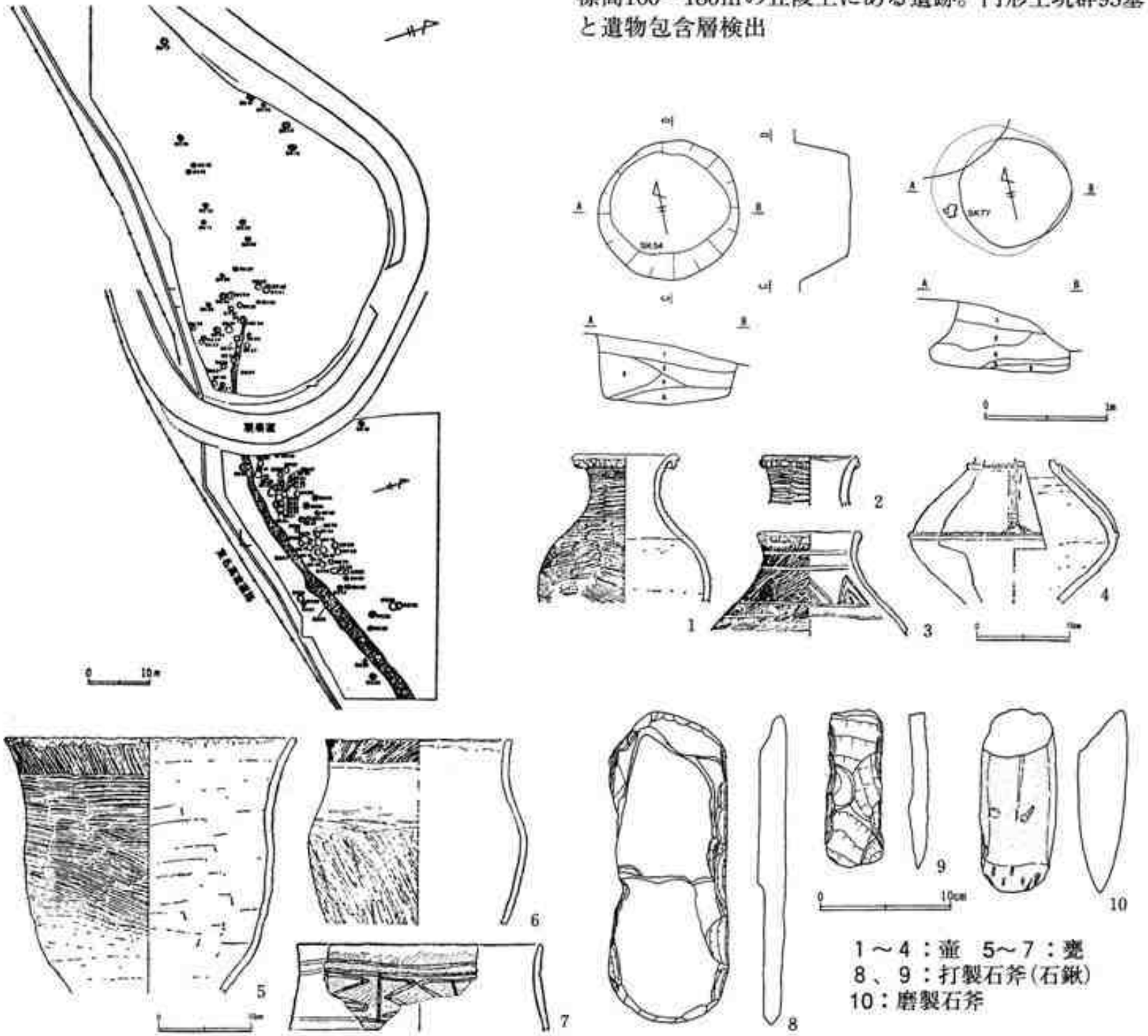


（谷口1999）

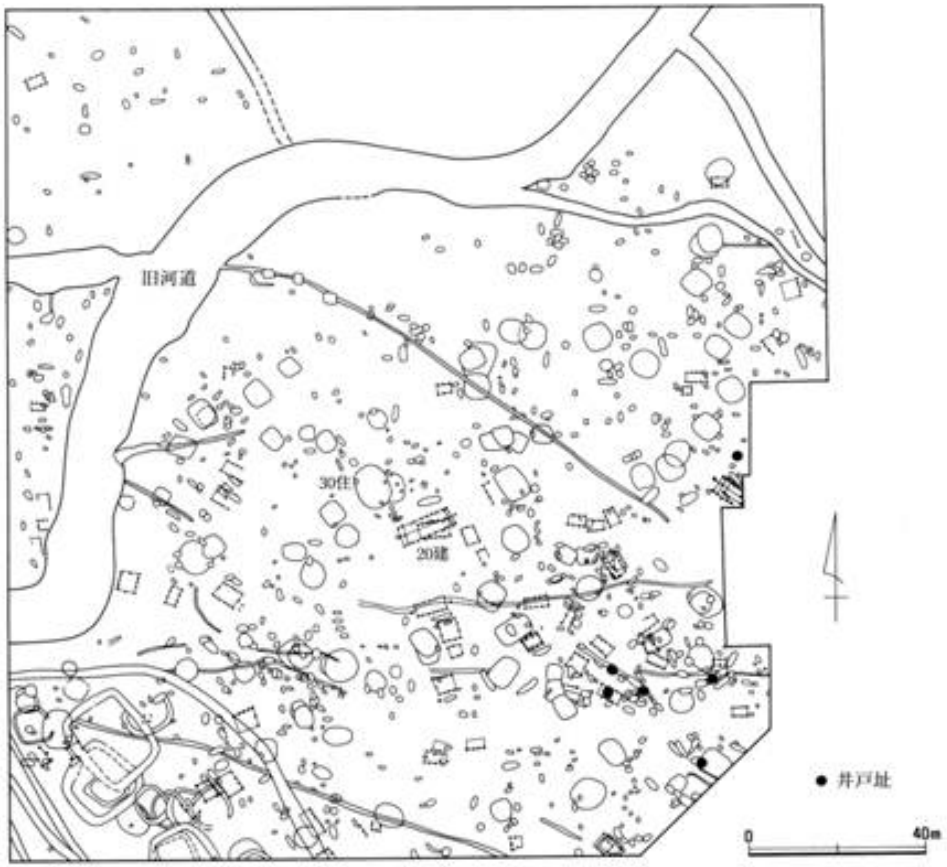
山北町堂山遺跡（弥生時代前期末～中期初頭）

（安藤1988・谷口1991より）

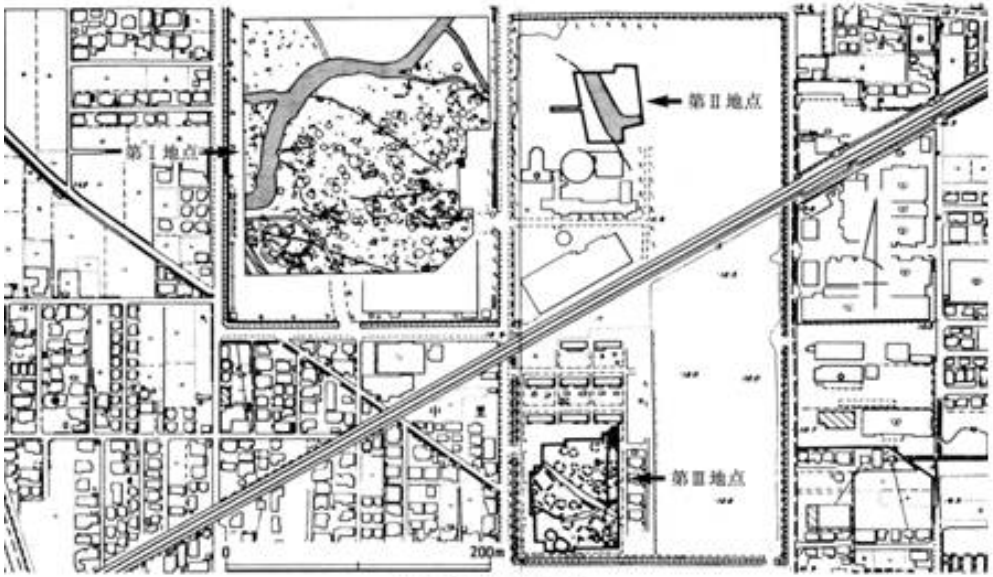
標高160～180mの丘陵上にある遺跡。円形土坑群95基と遺物包含層検出



（谷口1999）



中里遺跡第Ⅰ地点遺構配置図



中里遺跡全体図

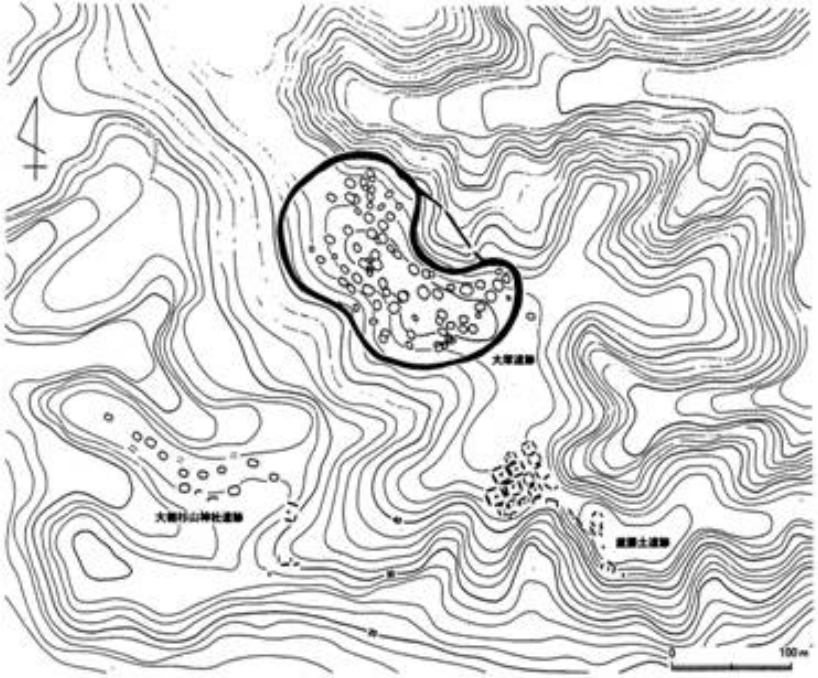
小田原市中里遺跡第Ⅲ地点（弥生時代中期中葉）

（戸田・呉地ほか1997に一部加除筆）

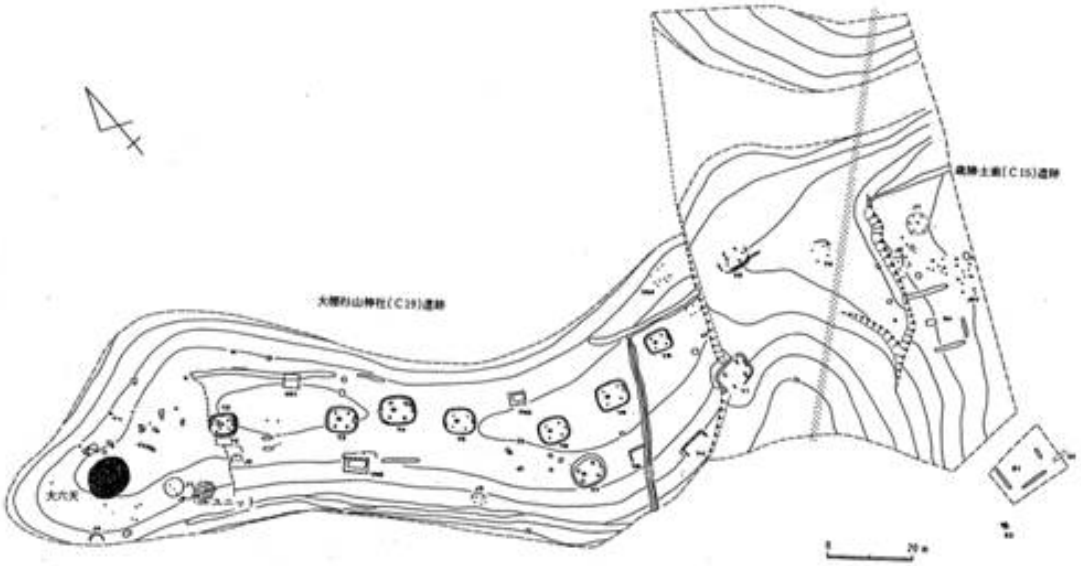
標高10mの低地につくられた墓地。同時期の集落から南東200mに位置する。方形周溝墓46基を検出。

1：8号墓出土　2：12号墓出土　3：26号墓出土
4：35号墓出土　5：10号墓出土　6：39号墓出土　7：40号墓出土

（谷口1999）



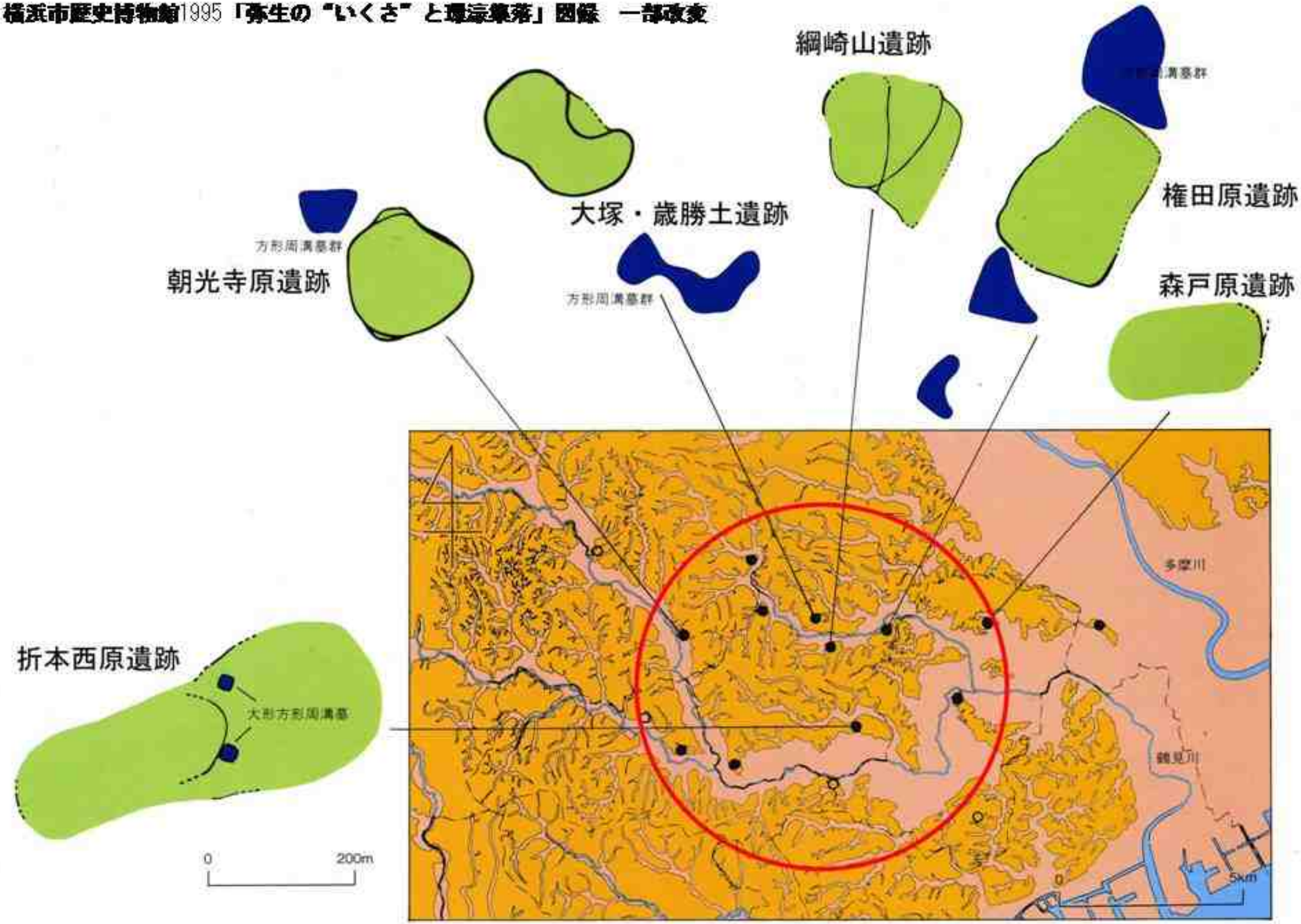
大塚・歳勝土遺跡と大棚杉山神社・歳勝土南遺跡（弥生時代中期後半）



大棚杉山神社・歳勝土南遺跡拡大図

（及川2002）

横浜市歴史博物館1995「弥生の“いくさ”と環濠集落」図録　一部改変



横浜市鶴見川中流域の弥生時代中期環濠集落の分布　赤●は直径 10 km

低地の集落 逗子市池子遺跡群（弥生時代中期～後期）

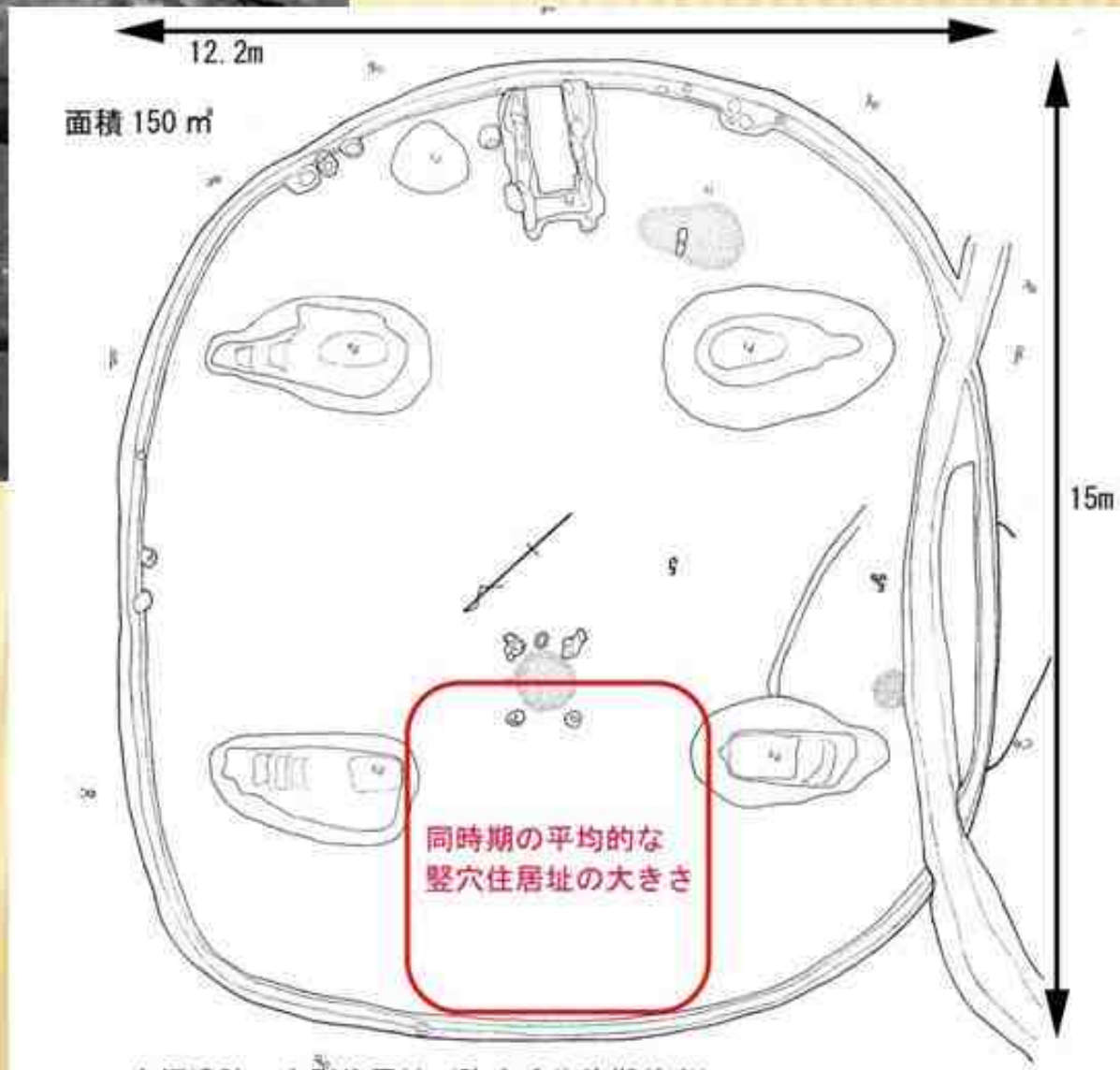
三浦半島の弥生集落

横須賀市鴨居上ノ台遺跡

三浦市赤坂遺跡　白線が遺跡の範囲。
写真外を含め約７万㎡

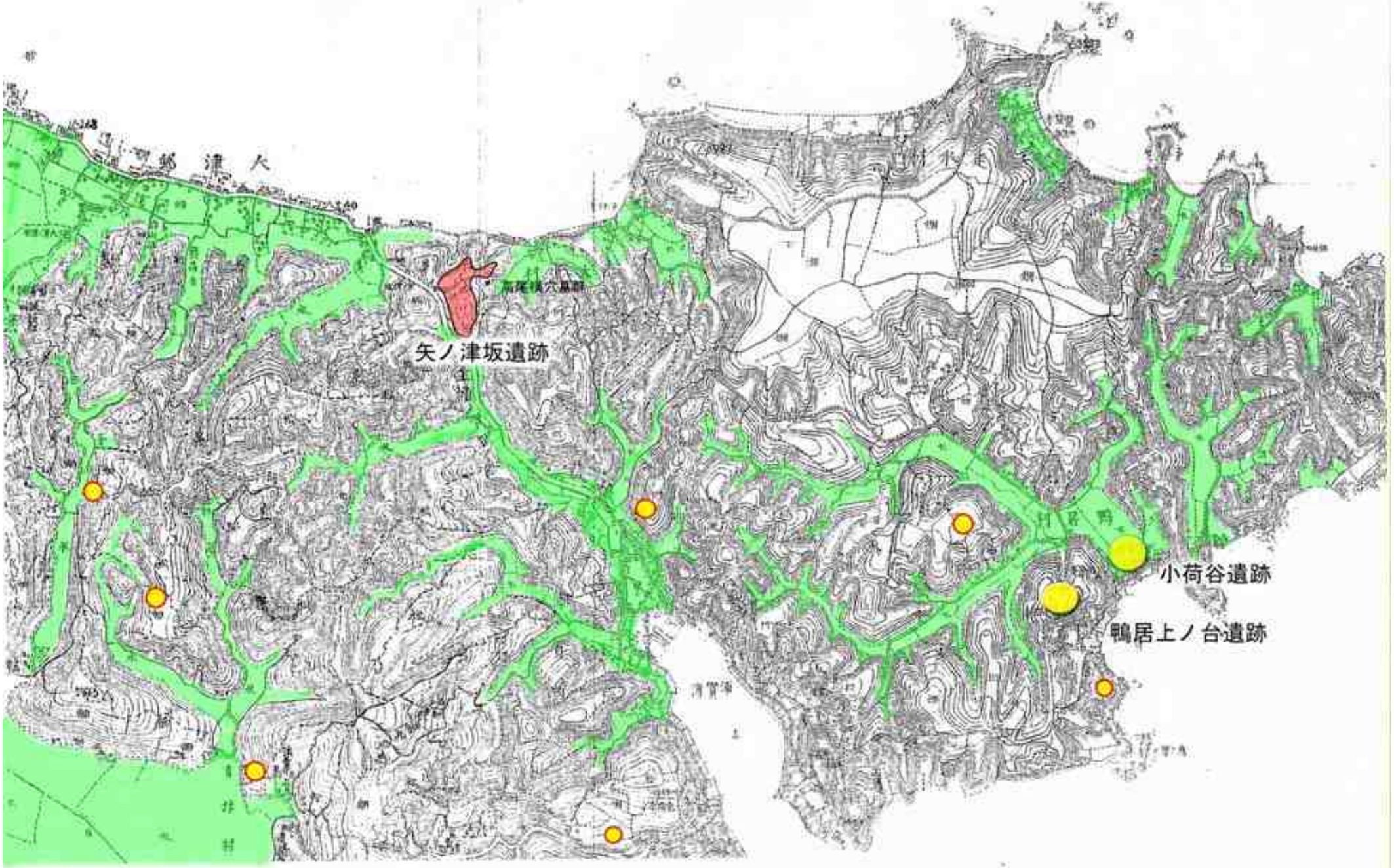
三浦市赤坂遺跡の大型住居址（弥生時代後期）

赤坂遺跡の大型住居



赤坂遺跡の大型住居址（弥生時代後期前半）

猿島
至　横須賀中央駅
馬堀海岸駅
高尾横穴墓群
矢ノ津坂遺跡
至　浦賀



遺跡周辺の旧地形［S=1/20000、明治前期測量フランス式彩色地図より］

矢ノ津坂遺跡周辺の地形と弥生時代の遺跡

大阪府古曽部・芝谷遺跡 防御的性格の強い高地性集落

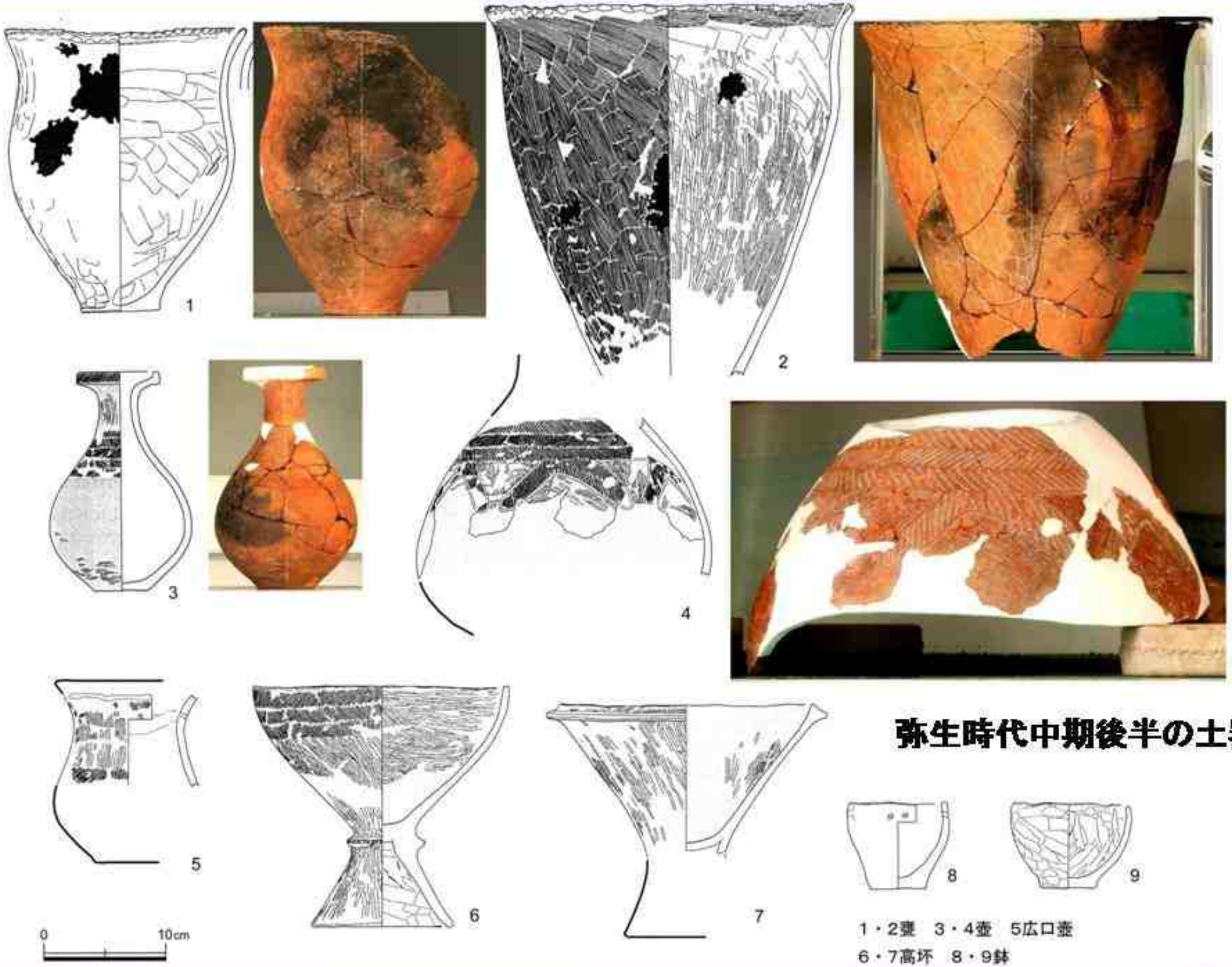
尾根上の集落の類例
高地性集落

西日本では、弥生時代後期を中心に見晴らしのきく尾根上を選んで営まれた集落がある。尾根の周囲を溝で囲むものもあり、防御的集落で、狼煙台など見張りを目的とした集落と考えられている。

山口県清水遺跡 高地性集落

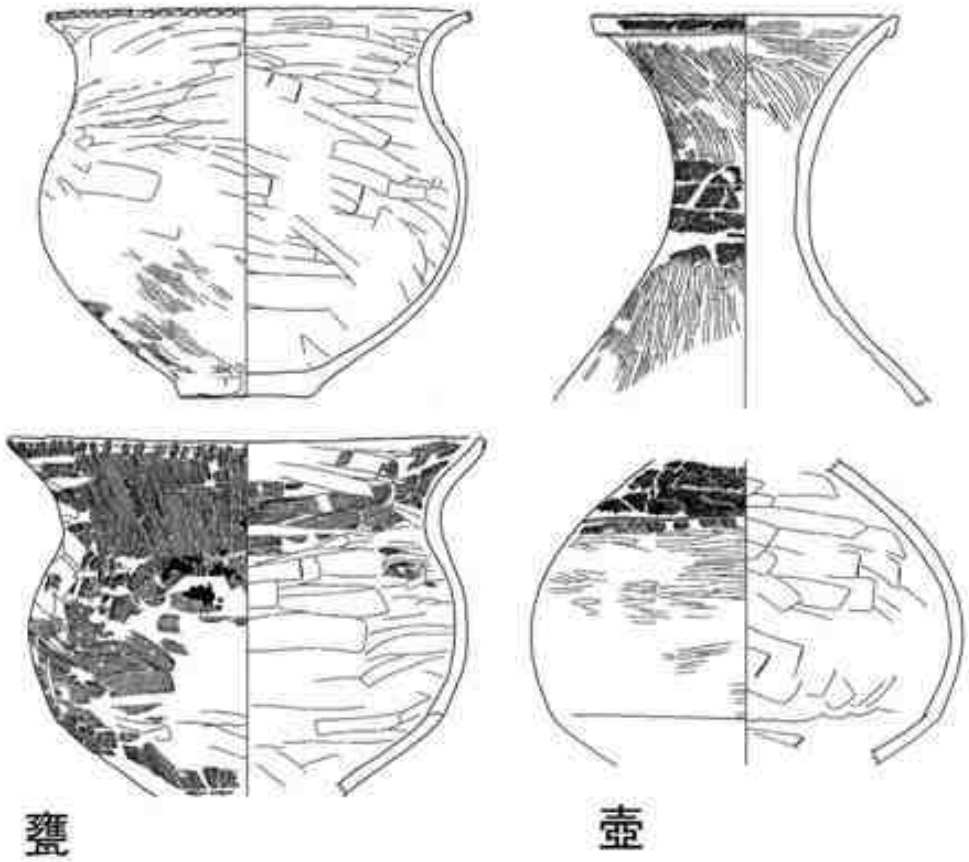
弥生時代中期後半　　弥生時代後期　　弥生後期末～古墳前期初等　　古墳時代前期

調査区全体では、３２軒（古墳時代中期～古代も含む）の住居址が検出されているが、各時期に分けるとそれぞれ１０～５軒となる。　尾根上の狭い範囲であり、水場へも山を下りなければならなかったはずで、不便な環境を選んで継続的に営まれたのはなぜなのでしょうか。

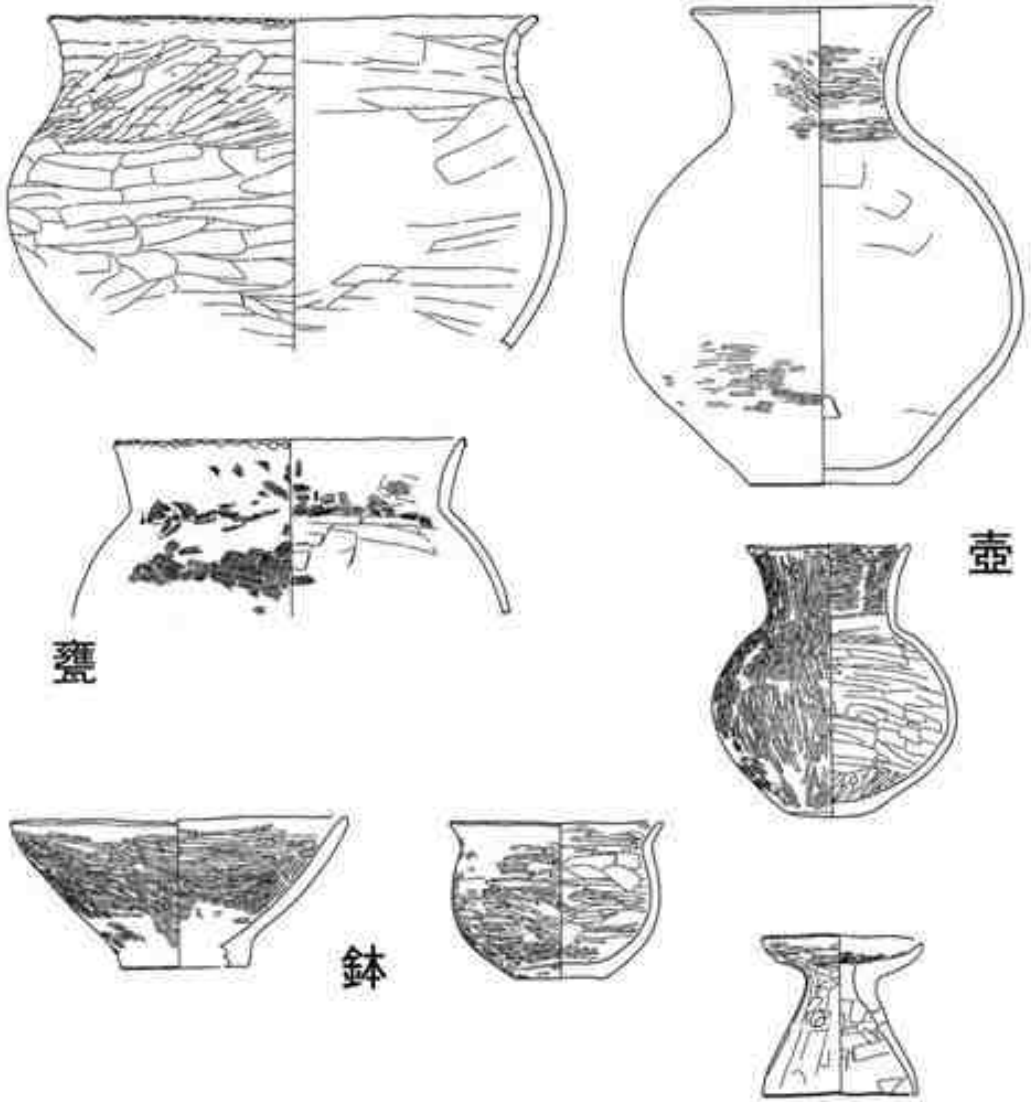


弥生時代中期後半の土器

1・2甕　3・4壺　5広口壺
6・7高坏　8・9鉢



Ｙ１０号住居址（弥生時代後期）

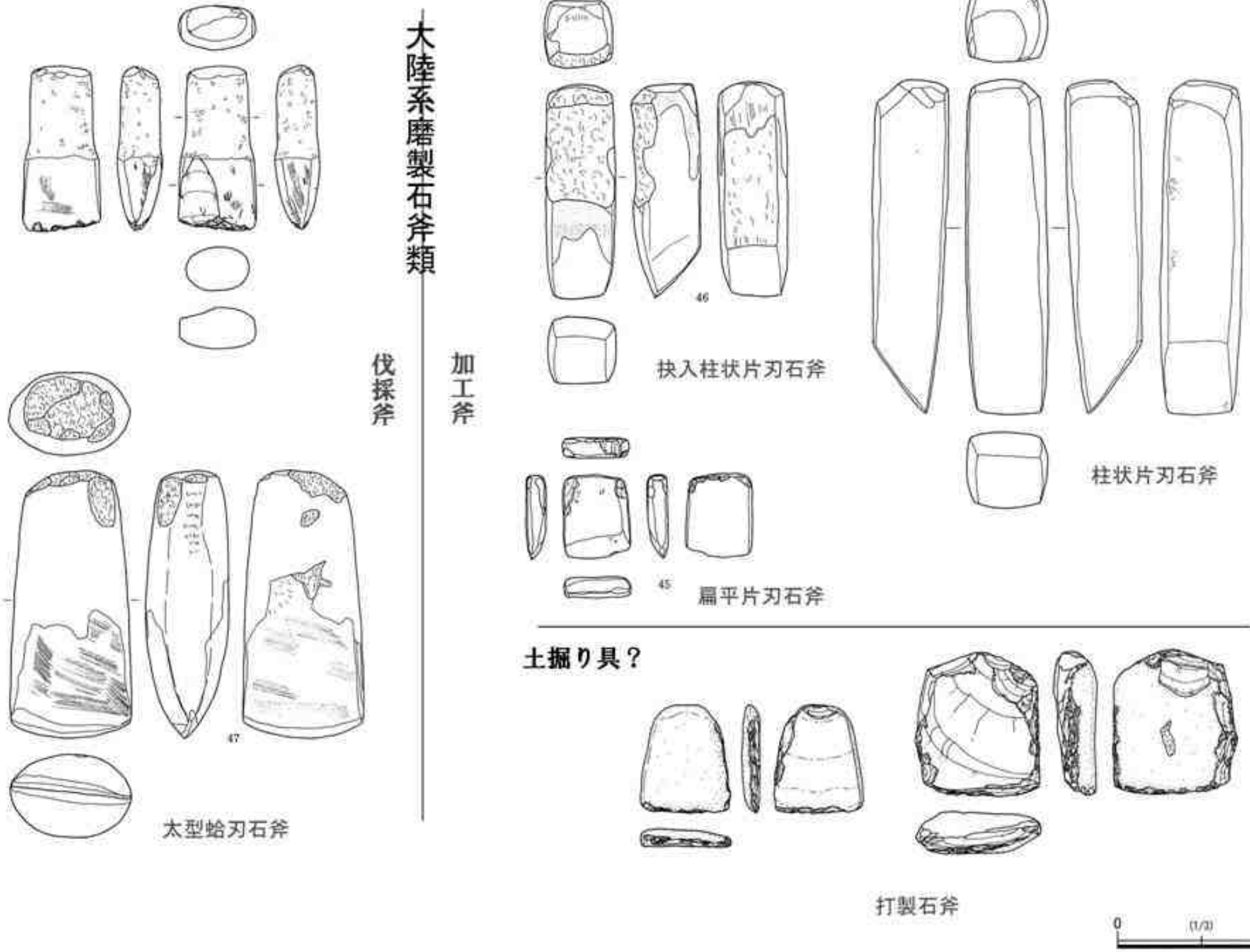


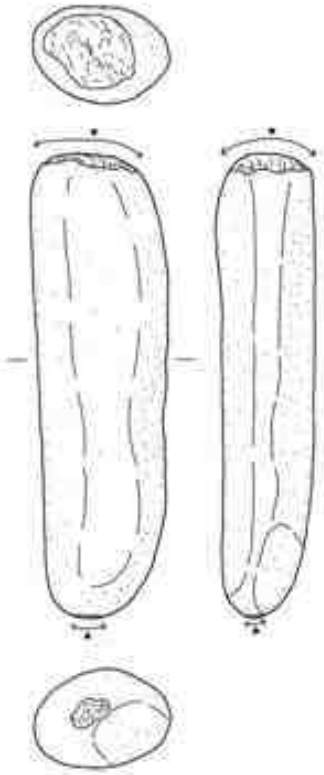
Ｙ２号住居址（弥生時代後期末～古墳前期初頭）

大陸系磨製石斧類

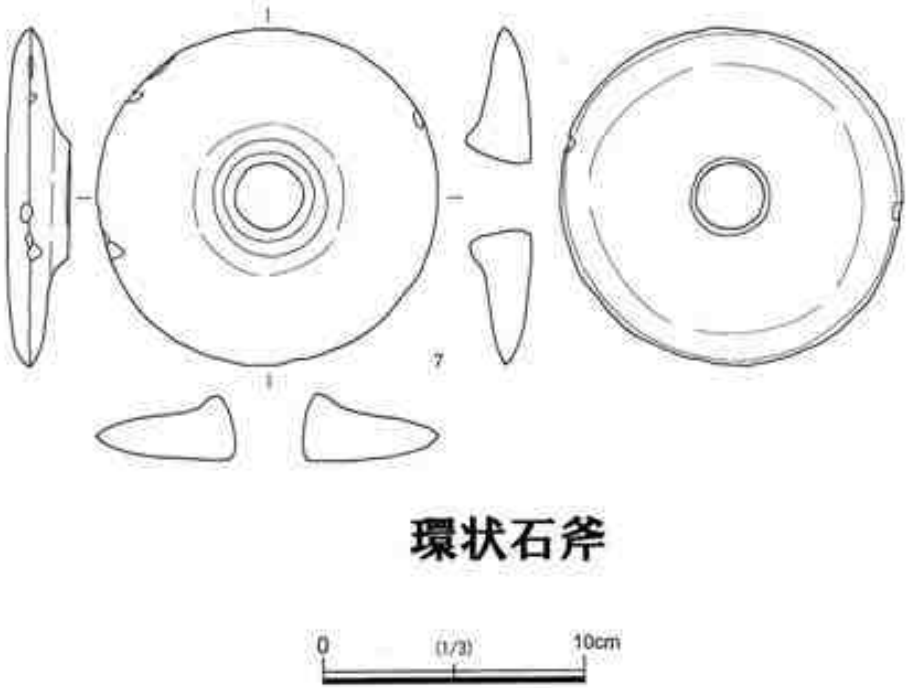
伐採斧

加工斧

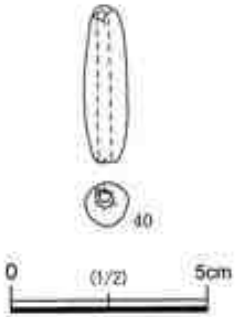




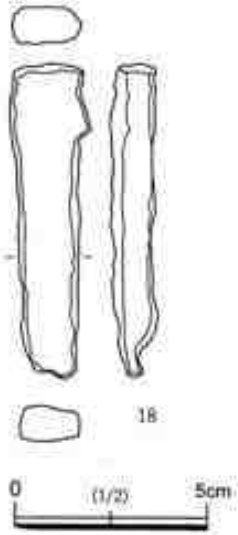
敲石



環状石斧



管状土錘



鉄製品（ノミ）

○敲石は、磨石などと共に食物をすりつぶすなどの目的に使われた。
○環状石斧は用途不明の磨製石器。祭祀用の道具という説が有力。
○環状土錘は漁で使用する網のオモリとして使用された。
○鉄製品は鑿（のみ）と考えられ、加工用の工具。

矢ノ津坂遺跡の土器組成

甕	２５，９７４ｇ（５２．７％）
壺	１５，２３７ｇ（３０．９％）
広口壺	３，０９２ｇ（６．２％）
鉢	３９６ｇ（０．８％）
高坏	１，５０３ｇ（３．１％）

池子遺跡群№１－Ａ地点の土器組成

甕	７２１個体（４０．６％）
壺	９３０個体（５２．４％）
広口壺	７７個体（４．３％）
鉢	１３９個体（７．８％）
高坏	４７個体（２．６％）

カウントの方法が異なるため、単純には比較できないが、低地の稲作集落である池子遺跡での土器組成と比べると、矢ノ津坂遺跡では壺の比率が少ないことがわかる。

弥生時代中期後半の土器組成比較

矢ノ津坂遺跡の性格

○東京湾が見渡せる、周辺との比高差３０mの狭い尾根上に立地。
○水田を営むに適した広い谷戸・低地から離れた場所に立地する。
○出土遺物に武器となるものがない。
○高地性集落に見られるような防御施設はない。
○継続的に古墳時代まで営まれる。
○土器組成中の壺の比率が低いことは、種籾などの貯蔵を行わなかったからかもしれない。
○土錘が出土している。

これらのことから、矢ノ津坂遺跡は漁労を生業の中心とした集落だったと考えられます。見晴らしの良い高台から東京湾を望み、潮目を見ながら漁に出かけたのかもしれません。

まとめ

○神奈川県では本格的な稲作の開始は弥生時代中期以降。それまでは、稲作技術が伝わっていたとしても、縄文的な狩猟・採集が生業の中心だった可能性が高い。

○本格的な稲作開始とともに、谷戸の発達した台地・低地周辺の微高地に集落が成立し、集落数も急増する。しかし、密集する環濠集落などの状況や、武器と認められる遺物がほとんど出土しないことから、集団間の争いは少なかったと考えられる。

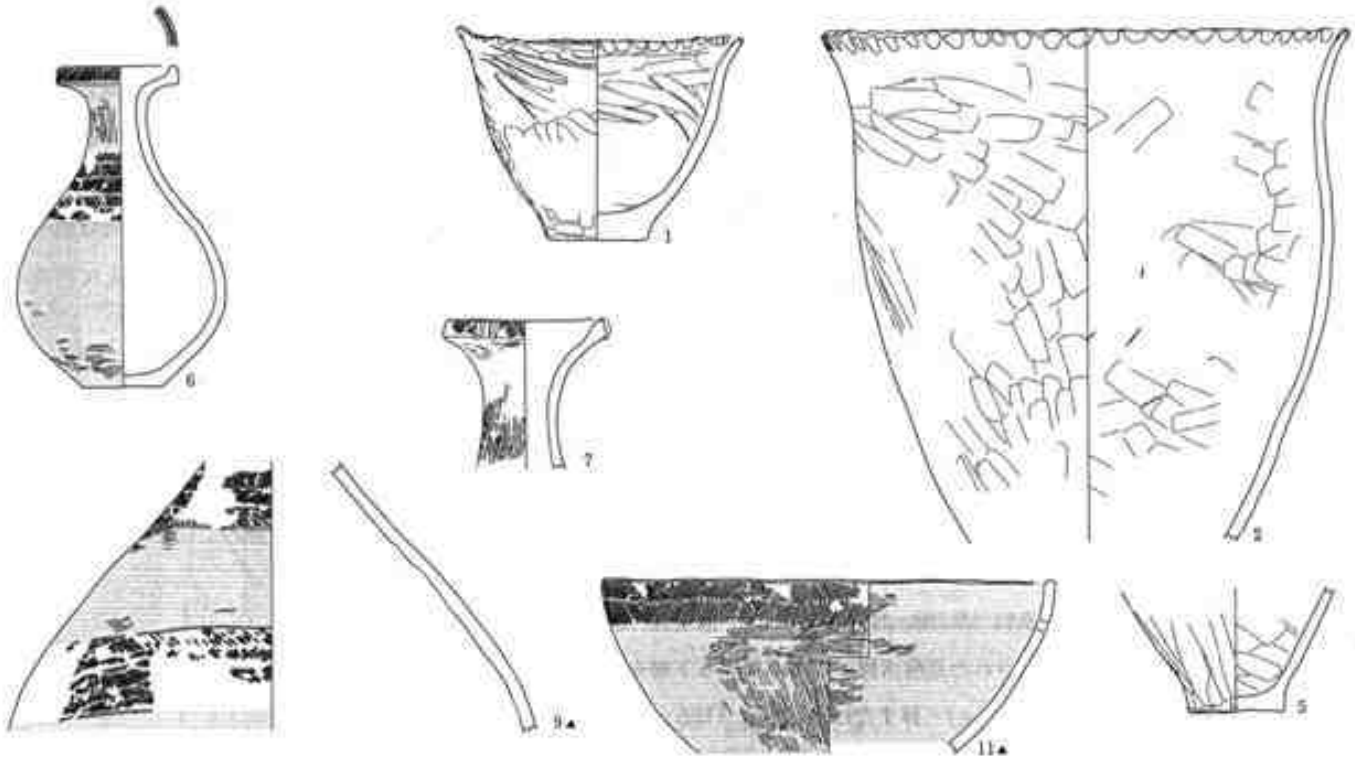
○農耕を主要な生産手段として発達する集落が拠点的な集落となる一方、比較的小規模な集落があり、これらの小規模集落の中には、人口増加による衛星的な集落と考えられるものと、矢ノ津坂遺跡のような、農耕ではなく、漁業を中心にしていたと考えられる集落も存在する。立地によって、様々な生業が考えられる。

第47表　矢ノ津坂遺跡における樹種同定結果

No	遺構名	グループ	枝番	結果(学名／和名)	
1	Y20号住居址	01JC	1	*Quercus* sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
9	Y20号住居址	01JC	9	*Quercus* sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
18	Y20号住居址	01JC	18	*Cleyera japonica* Thunb.	サカキ
19	Y20号住居址	01JC	19	*Cleyera japonica* Thunb.	サカキ
20	Y12号住居址	02JC	1	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
22	Y15号住居址		b区覆土上層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
23	H７号住居址	08JC	1	*Cephalotaxus harringtonia* K. Koch	イヌガヤ
31	H７号住居址	08JC	9	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
34	H７号住居址	08JC	12	*Cephalotaxus harringtonia* K. Koch	イヌガヤ
36	H７号住居址	08JC	14	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
43	H10号住居址	12JC	1	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
44	H10号住居址	12JC	2	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
47	H10号住居址	12JC	5	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
50	H10号住居址	12JC	8	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
53	Y５号住居址	13JC	1	*Cephalotaxus harringtonia* K. Koch	イヌガヤ
54	H９号住居址	19JC	1	Lauraceae	クスノキ科
57	Y２号住居址	30JC	2	*Castanopsis*	シイ属
58	Y２号住居址	30JC	3	*Castanopsis*	シイ属
59	Y２号住居址	30JC	4	*Sapindus mukorossi* Gaertn.	ムクロジ
60	Y２号住居址	30JC	5	*Cinnamomum camphora* Presl	クスノキ

第46表　年代測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	^{14}C年代[1)] (年BP)	δ^{13}C[2)] (‰)	補正^{14}C年代[3)] (年BP)	暦年代（西暦）[4)]
No.1	209325	2170±40	-28.1	2120±40	交点：calBC160 1σ：calBC190～80 2σ：calBC350～310，calBC210～40
No.2	209326	2140±40	-27.5	2100±40	交点：calBC110 1σ：calBC180～50 2σ：calBC200～30



左の土器が出土した弥生時代中期後半のＹ１５号住居址から出土した炭化材の年代測定を行った。
結果は紀元前２世紀初頭から１世紀中葉ごろ。